

レファレンス事例

海舟日記抄（電話問合せ）

当館架蔵本は、全8冊のうち第1冊を欠くものであるが、勁草書房版全集巻頭の写真掲出本と体裁が全く一致している。この本文は、戦前の全集に収められた日記と同本文であるが、勁草版全集の解題では、この抄録本は目賀田男爵家の旧蔵本で修史館の蔵印記があると記されている。当館本も

同じ蔵印記が見え、用紙が修史館の用箋であること、また一致している。

戦前版の全集では、勝海舟が門下に命じて謄写したものと説明しているが、そうではなくて、海舟から修史館へ日記を提出したことがあって、それを修史館では、抄録写本を2部こしらえて、一部を勝家へ呈し、一部は修史館に蔵したものと解釈するのが妥当ではあるまいか。

当館が購求したのは、明治35年6月10日であり、扱った書店は、浅倉屋である。